

五島中央病院ニュース

発行 平成21年10月

第5号

病院の理念

五島の地域医療に貢献し、患者様に信頼される病院をめざします。

目標

- 一、患者様中心の医療
- 二、安全な医療
- 三、質の高い医療
- 四、健全なる経営
- 五、救急医療の充実

基本方針

- 一、患者様にわかりやすい言葉で説明します。
- 二、検査や治療については患者様の同意を得て実施するように努めます。
- 三、医療水準の向上に努めます。
- 四、病診連携、保健・福祉機関との連携に努めます。

目次

1 小児科より

2 2階病棟より



1 小児科より

【医療サービスについて】

当小児科は 本年6月より、前任の田中摂が退職し今村善彦が後任となりました。よろしくお願ひ致します。医療サービスとしては以前と変わりありません。午前中の一般外来の他、月曜日午後の学童を中心とした喘息（アレルギー）外来、火曜・金曜日午後のその他の慢性外来、乳児健診のフォローアップ、水曜日の予防接種を行っております。病棟業務としては入院患者の診察加療、当院出生の新生児の診察を行っております。時間外は当直医が対応し、必要に応じ小児科拘束医が診療いたします。

院外では地域の乳幼児健診、予防接種（BCG）に行っております。また月1回、長崎大学よりの応援医師による循環器外来も行っております。神経外来も従来どおり第3水曜日に行っています。入院は、当院外来からの入院の他、院外からのご紹介も随時受け付けております。

【最近の話題】

新型インフルエンザの話題が巷を騒がせていますが、五島におきましても徐々に増加しつつあります。先日も長崎県内の小児科医師の集まりで小児患者に対する対応が話し合われました。要点は重症児（脳症、心筋炎、ARDS等）が出た場合どうするかということで、基本的には高次病院へ緊急搬送ということになります。重症の見極めをいかに迅速にするかにかかっています。また、搬送といっても五島の場合へり搬送であり、天候、時間帯に左右される、複数名出た場合どうするか等問題はあります。

しかし、まず我々がダウンしないことが重要で日頃より心がけたいと思います。

スタッフ紹介

今村善彦：日本小児科学会専門医 日本小児神経学会員

谷川仁美：日本小児科学会専門医 日本小児神経学会員
日本重症心身障害学会員

2 2階病棟より

皆さんこんにちは！これから2階病棟の紹介をさせていただきます。2階病棟は、定床60床の精神・神経科病棟です。スタッフと申しますと、精神保健指定医2名を含む3名の優秀なドクターと、20代から大ベテランまでの17名の看護師が脇を固めております。

皆様は「精神科」というと“怖い”というイメージが先行するかと思います。実態は180度の正反対で常に笑顔があり明るく活気に満ちた療養環境です。

入院治療に関しては「薬物療法」「カウンセリング」「静養」「生活指導」を中心に展開されております。もちろん精神科の患者様の症状は様々で対症看護・医療が提供されています。そこには人生経験豊富なスタッフがいるので安心してください。

治療については自己決定の意向は尊重されています。実際に入院生活も一般科とも変わりなくスタッフ一同が、日常生活援助を中心に看護を行っております。看護における不変なものとして「いのちを守り・日常生活を整え・ありのままの個人を尊重し・そっと支えて見守る」という事です。

また年間を通して季節にあった月間レクレーションも行っており患者様にとっても、良い気分転換が図れるようにしております。

(今回は花火大会の様子を載せています)



現在はメディアを通し精神科患者における偏見も幾分緩和されてきていますが、まだまだ偏見は残っている状況にあります。このような状況を何とかしたいというのが我々スタッフの思いでもあります。その中で、保健所を通しての啓蒙活動など医師を中心に活動していますので、もしよろしかったら参加をお願いします。



最後に皆様も何か日常生活に不安やストレス、また夜に眠れないという方がおられましたら、遠慮なさらず精神科外来へご相談下さい。きっと良いきっかけになるはずです。

それでは、本日はここまで。お別れの時間になりました。明日もいい日が続きますように・・・。